



## 今回は 探究活動を生かした進路実現 その4 の報告です。

### ◇ 梅田拓海さん（明治大学文学部史学地理学科考古学専攻）の体験記！

#### おもな活動記録

- ・2019年度 日本考古学協会高校生ポスターセッション 最優秀賞
- ・2019年度 全国高校生歴史フォーラム 佳作
- ・2019年度 全国総文祭佐賀大会 岐阜県代表
- ・2018年度 全国高校生歴史フォーラム 優秀賞・学長賞
- ・地域研究部部長

私は、関高校に入学した時から大学では考古学を学びたいと考えており、今回、その念願かなって明治大学文学部史学地理学科考古学専攻に合格することができました。その際に、SGH活動や活動の経験が非常に役に立ちました。

私は関高校では地域研究部に所属しており、その活動の一環・延長線上の活動で、SGH活動として研究やフィールドワークに参加しました。例を挙げると、2018から2019年にかけて行った江馬修という岐阜県出身の小説家であり考古学者であった人物の研究の際には、彼が活動した飛騨高山に赴いて、活動の功績を辿ると共に彼が収集した遺物の確認・調査をしました。収集遺物の確認・調査からは、江馬が収集した遺物は数千点にも及び、それら一つ一つを丁寧に研究していたということが分かり、彼の深い探求心と熱意を感じ取ることができました。このことは私たちの研究の成果の一つともなり、私たち地域研究部の研究は2019年の日本考古学協会高校生ポスターセッションにおいて最優秀賞を受賞することができました(下写真)。

私自身、このフィールドワークを行う前までは江馬について飛騨高山の地で研究を行った人物という漠然としたイメージしかもっていなかったのですが、この活動によって彼の意思の一端や研究に触れて江馬という人物像を確立することができ、研究に生かすことができました。江馬についての研究に関しては、面接試験の際に大学教授の方々に関心を持っていただけました。

また、飛騨高山の古い町並みを地元の高校生の案内で巡るという活動にも参加し、その際には建物の特徴や周囲の様子を同じく古い町並みである私の地元的美濃にあるうだつの町並みと比較しながら巡ったり、地域独自の行事について学んだりすることができました。

私はSGH活動の中でフィールドワークに多く参加していたのですが、そのメリットとしては、飛騨高山での調査のようにフィールドワークでは本で見たり人から聞いたりしただけでは得られないリアルな情報を得ることができ、自分の中で明確なイメージと考え方を持つことができると



ころにあると考えます。「百聞は一見に如かず」という慣用句がありますが、フィールドワークの中で得られるものは正にこれの意味通りですし、これに加えて「百見は一触に如かず」といえるようなことも体現しています。実際に触れてみることで目では見えないような些細なものを感じ取り、手にとって分かった予想外の事実疑問と興味が生まれるという経験。私は、これらの経験は物事を理解し、興味を持ってもらうために重要なものであると考えており、これから考古学を学び、人に伝えていく中で大切にしていきたいと考えてい

ます。というのも、考古学は日常と関係性が薄く、文字や口であれこれと伝えてもいまいちよくわからないものが多々あるので、私自身がそうであったように、リアルを見る・リアルに触れることによって敬遠されがちなものも身近に感じてもらえると思うからです。フィールドワークというのは一見大変で時間がかかるものに見えますが、苦労や時間以上の知識や経験といったリターンを得ることができます。

そもそも、私が明治大学を志望した理由ですが、端的に言えば明治大学で学べる考古学が自分の希望と合致していたからです。私は考古学の中でも旧石器から古墳時代までのいずれかの時代について学び、将来的にそれを生かした仕事をしたいと考えており、調べてみたところ明治大学の考古学は丁度旧石器から古墳時代までの時代が学べることと、明治大学では他の大学と違って1年生の時から考古学を学べることが分かり、周囲の環境なども加味して明治大学でならば自分の学びたいこと、やりたいことができると考えこの大学を志望しました。

私はもともと明治大学志望で通常受験をするつもりだったのですが、担任の先生に折角研究活動の実績があるのだから推薦入試を利用して見たらどうかと進められ、夏頃に自己推薦入試に挑戦しよう決めて、出願の期限が近かったので急ピッチで必要書類の準備をしました。私自身にとってもこの挑戦は予想外のことだったので事前準備はほとんどしていなかったのですが、これまでの研究や活動の実績や経験から志望理由書などはそこまで苦労せず書くことができましたし、内容に関しては面接試験の際に教授方からお褒めの言葉をいただきました。

SGH活動というものは絶対役に立つと言いつけられている反面、実際にやってみるとめんどくさいことが多いこともあります。私もそう感じたことはあります。ですが自分が興味・関心を抱いている分野の活動だとあまり苦にはなりませんし、前述したように後に生きる知識や経験が得られ、自分のやりたいことも見えてくるかもしれません。なので、自分の興味・関心がある分野の活動には積極的に参加していくことをお勧めします。また、関高校には頼りになる先生方がいらっしゃいますから、進路についてわからないことがあったり、何かやってみたいことがあったら躊躇わず相談してみるといいと思います。



全国総文祭佐賀大会の記念撮影